

クラウド時代のトップ人材 クラウドマイスター

システムの構成がメインフレーム中心からクライアント・サーバー型になることで要素技術が増大し、一人のシステム・エンジニアでは対応し切れなくなりました。そして、プロジェクト・マネジャー、IT アーキテクト、IT スペシャリストというように、分野ごとにスキル定義を行い、専門家を育成して分業型モデルで対応してきました。今、クラウド時代を迎え、IT リソースは分散から再び集中へと変わり、ビジネス・スピードに合わせて短期間で開発を行うことが求められています。そこで、クラウド時代に求められる人材には、IT 要素技術の得意領域を持ちつつ、その領域間でスキルを拡大し、業務特性に応じてクラウドに特徴的な技術（仮想化技術、サービス・マネジメント、自動化技術、スケールアウト、アジャイル開発など）を取捨選択できる能力が必要だと考えています。

このような背景から、日本 IBM ではクラウド・コンピューティング技術に関する社内資格制度として「IBM クラウドマイスター」制度を新たに導入しました。この制度にはコンサルタント向けの「認定クラウド上席コンサルタント」と、技

術者向けの「認定クラウド上席エンジニア」の2種類があります。認定条件としては、クラウド関連技術や業界動向の知識に加えて、包括的なシステムの設計や導入経験を重視しています。特に導入経験については、単なる導入件数ではなく大規模かつ複雑なシステムへのクラウド適用を技術的にリードした経験があることが求められます。変化の激しい領域のため資格の有効期間は2年とし、継続には再審査が必要となります。クラウドマイスターはIBM クラウドの第一人者としてお客様システムへのクラウド導入支援やシステム設計業務を担い、社内ではIBMのTeam Cloudのコミュニティーにおいて、各分野を技術的知見からリードします。

2011年1月19日に認定式があり、6名のIBMクラウドマイスターが選ばれました。コンサルタント1名と技術者5名です。それぞれがクラウドの得意分野を持っています。次号以降、マイスターによるクラウド構築ノウハウについても順次ご紹介する予定ですので、どうぞご期待ください。

質問応答システムがクイズ番組に登場 IBM 基礎研究所が開発した質問応答システム Watson

2011年2月14～16日の3日間にわたり、IBM 基礎研究所が開発した Watson と命名された質問応答システムが、米国の有名クイズ番組「Jeopardy! (ジョパディ!)」に挑戦し、最高賞金額を獲得しました。Watson プロジェクトは2007年にスタートした、IBMのグランド・チャレンジ（成功の保証がない野心的な科学技術的挑戦）の1つです。今回の成功は1997年5月のチェス世界王者との対戦以来約14年ぶりの快挙でした。ロゴ付きで登場した Watson（写真中央）が対戦したのは、2004～2005年にかけてジョパディ!で74回という最多連勝記録を達成したケン・ジェニングス氏（写真左）と、累積賞金として過去最高の約325万ドルを獲得したブラッド・ラター氏（写真右）の2名で、まさに同番組の最高峰との対戦が実現しました。

Watson が実現した質問応答（question-answering）の技術とは、人や場所などに関するさまざまな質問に対して、（地名や人名などの）短い解答を返すというものです。通常の検索エンジンであれば質問に現れるキーワードを含む文書

を返しますが、質問応答では解答そのものを計算する点が大きく異なります。またクイズ番組特有の複雑な質問表現を分析したり、解答の確信度を高い精度で推定し、自信のある場合にのみ解答するといった高度な処理も実装されています。

次号 ProVISION 70 号では、この質問応答システム Watson を実現する技術の詳細とその意義を解説し、質問応答技術がお客様にとってどのような価値を提供できるのかを紹介する予定です。どうぞご期待ください。

